

愛知県立芸術大学キャンパスマスタープラン2011作成委員会議事要旨

第4回

開催日時：平成24年3月8日（木） 午後4時10分から午後5時50分

場 所：愛知県立芸術大学 管理棟 3階 大会議室

出席者：委員名簿のとおり

（公共建築課は若月主幹が代理出席）

○よくまとめられている。今回が初めてのマスタープランとして、今後レベルを高めていくようにしていただきたい。

○インフラについて、現在は講義棟の西にエネルギーセンター（機械棟）があると思うが、将来は分散化ということになると大きな変換になる。

○将来的には集中化より個別空調のサテライト型・分散化という管理は、大きな変換・構造改革になる。集中から分散へということでリスクを減らすことになる。共同溝はエアチューブ的なものとなり、地中熱を空調に活用することができる。

○いろいろなことに対応してよくまとめられており、構成も明快、図もきれいであり、さすが芸術大学という感じである。

○オーセンティシティは、日本語では「本物」という意味であり、美術品では本物と偽物ということになるが、建物は時代とともに変えられるものであり、そうして変えたものが偽物になるというものではない。

○この報告書は、昨年度のビジョン報告書と合わせて一つのものとして県に提出するのか。それとも、これ一つで申請していくことになるのか。

⇒A：今回はこれで1つの報告書であり、昨年度のビジョン報告書はそれだけで成立しているものである。今後の検討では、この両方に基づき進めていくこととなる。

○オーセンティシティという言葉についてご指摘いただいたが、3回に渡ってこの委員会で論議してきたものの、他に適切な日本語の表現はないと思う。オーセンティシティという言葉を使ったほうが判りやすい。その考え方が歴史的建造物だけではなくて、戦後に建てられた建物（いわゆるモダニズム建築）であってもその価値を評価し残していくという時の指針にすることである。

○来年度からの検討においても常にこの理念を確認しながら進めてほしい。

○改修等について、現在の建築基準法に合うような方策は、シミュレーションで解決法が見つかると思う。

○使い続けてきた古くなった建物を新しい時代でも使用することは重要なことである。

○当時、この辺りは僻地であり、県としてお金がない中、芸大を設置したときいている。その時の理念を伝えるということがオーセンティシティということになる。

○建築物について、元に戻すことは今の時代に合わないということを言われるが、復元ではなく、復原という理念としてとらえていく。

奈良会議については、これまでのヨーロッパの石の文化だけではなく、国や場所によって多彩で多様な建造物があるのだという価値観を変えた重要な会議であり、法隆寺のような改修を重ねた木造建物を含めた新しい概念である。

○これから報告書を取りまとめて県へ提出することになるが、今回のマスタープランを基に愛知県が本学の施設整備計画を作成すると聞いている。

今後、県と協議・検討をして着実なキャンパス整備を進めていきたいと考えている。